



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



「お靴のペン」靴を揃える習慣を
 3月11日 燕市役所

燕、吉田、分水のロータリークラブ様より、燕市内の新入園児、施設向けに「お靴のベッド」を寄附いただきました。今年で21回目となります。ありがとうございました。



立川談春
 独演会
 3月13日 燕市文化会館

市内でロケが行われた下町ロケットが縁で、3年ぶり2回目となる「立川談春独演会 燕公演」が行われました。巧みな話術で、満員の客席は大いに沸きました。



箱根駅伝総合優勝の
 岸本選手が市長表敬
 2月24日 燕市役所

1月に行われた箱根駅伝の復路7区を区間賞で快走。青山学院大学の2年ぶり6度目の総合優勝に貢献した岸本大紀選手が市長表敬のため来庁しました。



遺跡出土品が語る
 縄文時代の燕の暮らし
 3月5日 総合文化センター

市内での発掘調査の成果を展示した遺跡出土品展。説明会では、縄文時代の遺跡と今年度の調査内容が報告され、参加者は先人の暮らしに想いををせていました。



▲当時の背景を知ること
 で先人の苦勞が伺い知れます。

燕市産業史料館
 ☎ 0256・63・7666
 休館日：月曜日
 ■入館料
 大人400円、高校生以下100円
 ※団体割引あり

大正時代は、日露戦争（1904～1905年）後の反動から、全国的な不況の真っ只中でした。燕町（現燕市）でも職工の賃金が下落し、米価は高騰しました。さらに追い討ちをかけるように大火がたび重なり、人々の生活は困窮する状況が続きました。当時、金属の加工産業に携わる人たちは、工事中であった大河津分水路の建設に従事することで、生活を維持することができ、結果、江戸時代より続く技術を絶やすことを免れました。それでも、多くの作り手たちは、自己の技術を活かす場や仕事を求めていました。燕は良品を作り出す技術を持つ反面、独自の販路を確保することに苦戦してきました。しかし、燕の製品を全国に広めたいという想いでさまざまな試行錯誤を重ね、それらの努力が実るよう金属洋食器生産業者を探す東京・大阪の商人との出会いが実現し、やがて金属洋食器の量産を始めるようになっていきました。この品は、手づくりの金属洋食器で、金鍍を用いて製造されました。

今月の一品

真鍮製手づくりスプーン・フォーク（大正7年）



大河津分水コラム
 次の100年に向けて
 桜に託した大河津分水への想い

大河津分水の桜を植え始めた時期は、大河津分水工事が始まって間もない明治43（1910）年頃とされています。以来、毎年のように植樹を重ね、昭和初期には新潟県を代表する桜の名所となりました。旧洗堰の右岸側には桜を植えた功労者として、山田卯之七、山宮半四郎、田沢実入の3人の名前が刻まれた「桜之碑」が建てられています。また、この碑の裏面には田沢実入の次の歌が刻まれています。

「いく千春 かはらでにほへ 桜花 植にし人はよし散りぬとも」
 「敷島の 日本こころの 佐久良花 堤とと裳によ露つよもか那」

（たとえ植えた人が居なくなっても、大河津分水の桜がずっと続いてほしい。そして、大河津分水と共に萬代まで受け継がれてほしい）

大河津分水を後世に伝えたいという想いから植えられた桜。その想いを受け継ぎ、桜を守り育て、大河津分水を伝えようとしている人々が燕には大勢います。大河津分水の桜は、先人たちが私たちに託された「大河津分水を伝える」というバトンのなにかもしれません。



今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもの様子をお届けします！



右見て、左見て、
 気をつけて渡ります
 3月1日 燕西小学校周辺

燕警察署・燕市交通安全協会の協力のもと、下校時の横断歩道で安全指導を開催しました。通り慣れている通学路でも油断は禁物。特に信号機のない横断歩道は注意が必要です。みんな周囲の安全を確認してから、しっかりと手を挙げて渡っていました。子どもたちの安全な登下校のためにも、地域のみなさんご協力をお願いします。

なるほど！長善館

長善館史料館 ☎ 0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。



▲長善館を開学した38歳の文臺（晩年の肖像画からCG技術を駆使して再現しました）

学問を深めるため、文臺は解良家の支援で、1814（文化11）年に江戸へ出向きます。著名な儒学者・亀田鵬斎から学ぶ機会を得ましたが、深い学問を積んでいた文臺は満足できず、江戸でも独学したとされます。22歳のとき、幕府の図書館「楓山文庫」にて学ぶべく、さらなる留学を願いますが、母から帰郷を懇願され両親の元へ戻ることに。孝行を教わった母に背くことはできませんでした。後年、母が臨終の床にあつたときには、文臺は2カ月もの間、衣服を着替えず看病にあたつたと記録されています。

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.49



こんにちは。協力隊空き家担当の芦川です。早いもので協力隊任期もあと1年となりました…！やり残しのない1年にしたいと思います。新年度を迎えると、私は何か始めたくります。昨年度は、広報つばめに掲載されていた英会話講座を1年間受講しました。このご時世、休講や自粛することもありましたが、先生や受講生の皆様のおかげで楽しく受講できました。ありがとうございました！移住者としては、職場以外でお友達ができることがとてもうれしかったです！

広報には、生涯学習のような講座案内から、事業や補助金の案内など、さまざまな情報が詰まっています。空き家関連の情報も度々掲載されますので、是非ご確認ください！

1年間、英会話講座を共にした仲間です。とても有意義に学ぶことができました。



燕市地域おこし協力隊
 芦川 穂子（左から1番目）